

【（公財）東京都交響楽団】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

あらゆる人々に良質な音楽に触れる機会を提供し、芸術文化都市東京の実現に寄与するオーケストラ

重要課題
①

東京の公的なオーケストラとして、教育・社会貢献に資する演奏活動など、様々な人々が良質な音楽に触れられる機会の提供をいかに進めていくか

検討の状況や今後の方向性

- 定期演奏会を中心に質の高い演奏活動を展開するほか、小中学生への音楽鑑賞教室等の教育活動や、福祉施設や病院、多摩・島しょ地域や東日本大震災の被災地など、演奏会場に足を運びにくい方々を対象とした出張演奏を積極的に実施することで、年齢や場所に関わらず様々な人々が良質な音楽に触れることができる機会を提供する。
- また、東京2020大会に向けた文化プログラムの中核を担うイベントとして、都と共に、子供から大人まで誰もが参加し楽しめる「サラダ音楽祭」を拡充して実施する。
- さらに、専門的・多角的な見地から意見交換を行う「東京都交響楽団の将来像に関する有識者懇談会」での議論を通じ、楽団としてのあるべき将来像や今後の方向性について、長期的な視点での検討も進め、芸術文化都市東京の実現に寄与する世界トップクラスのオーケストラを目指していく。

【（公財）東京都交響楽団】の課題と今後の方向性

重要課題 ②	「[サラダ音楽祭]TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL」の拡充
検討の状況や今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">○ 東京2020大会の気運醸成に向けて、前回オリンピックの記念事業として設立された東京都交響楽団（都響）が、東京都とともに、誰もが音楽の楽しさを体感・表現・発信できる「サラダ音楽祭」を拡充し、本格開催する。○ 開催2年目となる今年度の音楽祭は、子供から大人までより多くの方々が参加し楽しめるよう、日数、プログラムを拡充するとともに、昨年開催した東京芸術劇場を中心とする池袋エリアのみでなく、日比谷公園大音楽堂でのポップスな曲中心の野外コンサートや、新宿、上野、多摩エリアなどでのミニコンサートを含め、都内各地で展開する。○ さらに、2020年に最高の盛り上がりとなるよう来年度の企画内容の検討も進め、音楽祭を通じて、東京2020大会の気運醸成を図るとともに、大会のレガシーとして大会後の定着化も目指していく。